

木更津市オーガニックシティ
フェスティバル 2017

結果報告書



目 次

第1 開催概要	1
1. 「木更津市オーガニックシティフェスティバル 2017」開催概要	1
第2 実施結果	6
1. 全体事項	6
2. 実施結果	6
開会式	6
地区まちづくり協議会シンポジウム	7
“認知症かも？違うよね？” そんな時にー	11
家族の思い ～理解と支えで住み慣れた地域で暮らす～	16
食育講演会「人と野菜の関係と食育」	19
フェアトレードがめざす持続可能な社会	23
木更津ゆかりのキャラ大集合	29
博物館がつなぐ郷土の過去・現在・未来	30
木更津市鎌足桜保存会の活動紹介	30
自然を知ろう！風と遊ぼう！少年自然の家キャンプ場へ行こう！	31
飛び出す絵本のワークショップ&お片づけアドバイス	32
みらいラボ出張イベント	32
出張ココカラ	33
木更津高校展示発表「新しい風をおこそう」	34
地域で育む市民交流ライブラリー ～書を求めて、町へ出よう～	35
木更津高専の紹介 ～環境に配慮した研究取組の事例紹介～	35
木更津逸品研究会 お披露目会	35
農業ヒーローズ2 ～人と農をむすぶ～	36
第二回「きれいな海のまち木更津コンテスト」作品展示会	36
みんなで創る“オーガニックツーリズム” & きさらづクイズ	37
盤洲干潟の自然環境保全活動	38
千葉県産の杉間伐材を利用した木工ワークショップ	38
鉄鋼スラグを用いた海の森づくりの紹介	39
フェアトレードを知ろう！	40
千葉大学 デザインサーベイ2017 in 木更津 成果報告	40
「水稻除草ロボット」の展示	41
都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト	41
オーガニックでやさしい市税の制度説明	42
「税の作文」の展示	42

認知症カフェフェスティバル.....	43
障害について知ろう！	44
見て・歩いて・しゃべって 木更津の公民館をしよう！ &カフェコーナー	45
日本赤十字社の事業活動紹介.....	46
オーガニックシティきさらづ魅力発信コーナー	46
健康応援コーナー及び「第3次健康きさらづ21」展示.....	47
木更津市議会の議場見学	48
フードコーナー	49
第3 広報・配布物関係.....	51
第4 決算書.....	52

第1 開催概要



1. 「木更津市オーガニックシティフェスティバル 2017」開催概要

(1) 名称

木更津市オーガニックシティフェスティバル 2017

(2) 趣旨

平成 28 年 12 月に通称「オーガニックなまちづくり条例」を施行し、本格的にスタートしたまちづくり。人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代に継承していくことをめざす「オーガニックなまちづくり」について、見聞き、体験し、理解を深めていただくためのイベントです。

■「オーガニック」は、持続可能な未来を創るため、地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする考え方です。

■「オーガニックなまちづくり」は、オーガニックをまちづくりの視点として、地域社会を構成する多様な主体が一体となり、人と自然が調和した持続可能なまちとして、次世代に継承しようとする取組です。

(3) 日時

2017 年 11 月 26 日（日）9:30～16:00

(4) 会場

スパークルシティ木更津 本館 4 階、7 階、屋外スペース
（千葉県木更津市富士見 1-2-1 木更津駅みなと口駅前）

(5) 主催

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会

(6) 後援

千葉県

(7) 協賛

株式会社イベント・コミュニケーションズ、株式会社かずさアカデミアパーク、
関東自動車工業株式会社、株式会社木更津魚市場、木更津市内郵便局、興和建設
株式会社、株式会社ジェイコム千葉 木更津局、新日鐵住金株式会社 君津製鐵所、
スパークルシティ木更津、有限会社竹内商店、日東交通株式会社、株式会社リオ、
ワタナベメディアプロダクツ株式会社（企業名等五十音順・全 13 企業）

(8) プログラム

1) 特別プログラム（ステージイベント）

10:00~11:20
<p>■地区まちづくり協議会シンポジウム</p> <p>市内で広がりを見せる「地区まちづくり協議会」。日頃活躍している地域のリーダー達から日々の取組や今後の活動…そして、地域の未来について“熱く”語り合ってもらいます。</p> <p>【第1部 リーダーズトークセッション】</p> <ul style="list-style-type: none">・木更津市長 渡辺 芳邦・岩根西地区まちづくり協議会 鈴木 豊 会長・富来田地区まちづくり協議会 鴫田 宏 会長・西清川まちづくり協議会 平野 正善 会長 <p>【第2部 リーダーズプレゼンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none">・岩根東地区まちづくり協議会 青木 健 会長・八幡台小学校区まちづくり協議会 秋元 豊 総務部会長・鎌足地区まちづくり協議会 市川 一成 会長・金田地区まちづくり協議会 竹内 三郎 会長
11:30~12:30
<p>■講演「“認知症かも？違うよね？” そんな時にー」</p> <p>オビナタクリニック 院長 大日方 研 氏</p> <p>■事例発表 認知症の人と家族の会 代表 広岡 成子 氏</p>
12:45~13:45
<p>■食育講演会「人と野菜の関係と食育」</p> <p>築地御厨(つきじみくりや)内田悟のやさい塾 内田 悟 氏</p> <p>先人達が命をつないだ野の菜、野菜。</p> <p>日本の食の原点『野菜』の事を学びませんか！</p>
14:00~15:00
<p>■セミナー「フェアトレードがめざす持続可能な社会」</p> <p>特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン 事務局長 中島 佳織 氏</p>

15:20～15:50

■木更津ゆかりのキャラ大集合

木更津市マスコットキャラクターきさポンをはじめ、木更津市にゆかりのある多くのキャラが、木更津を盛り上げるために大集合！

2) ブースイベント（ワークショップ・展示等）

4階フロアを「社会」「文化」「環境」「経済」にゾーニングし、「オーガニックなまちづくり」に関連するワークショップ・展示などのブースイベントを開催！

社会ゾーン

- ・飛び出す絵本のワークショップ&お片づけアドバイス
- ・みらいラボ出張イベント
- ・出張ココカラ
- ・地域で育む市民交流ライブラリー ～書を求めて、町へ出よう～
- ・フェアトレードを知ろう！
- ・オーガニックでやさしい市税の制度説明&「税の作文」の展示
- ・認知症カフェフェスティバル
- ・障害について知ろう！
- ・見て・歩いて・しゃべって 木更津の公民館をしろう！&カフェコーナー
- ・日本赤十字社の事業活動紹介
- ・健康応援コーナー及び「第3次健康きさらづ21」展示

文化ゾーン

- ・博物館がつなぐ郷土の過去・現在・未来
- ・木更津市鎌足桜保存会の活動紹介

環境ゾーン

- ・自然を知ろう！風と遊ぼう！少年自然の家キャンプ場へ行こう！
- ・木更津高校展示発表「新しい風をおこそう」
- ・木更津高専の紹介 ～環境に配慮した研究取組の事例紹介～
- ・「第二回きれいな海のまち木更津コンテスト」作品展示会
- ・盤洲干潟の自然環境保全活動
- ・千葉県産の杉間伐材を利用した木工ワークショップ
- ・鉄鋼スラグを用いた海の森づくりの紹介
- ・「水稻除草ロボット」の展示
- ・都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

経済ゾーン

- ・木更津逸品研究会 お披露目会
- ・農業ヒーローズ2 ～人と農をむすぶ～
- ・千葉大学 デザインサーベイ2017 in 木更津 成果報告

3) フードコーナー

オーガニック&ナチュラルや地産食材など23店舗が出店！

■かずさファーマーズマーケット

オーガニック&ナチュラルな飲食、野菜等販売

■地域・交流コーナー

地元女子高生（木更津東高等学校）プロデュース、地元食材を使ったワンコインランチ、木更津市観光ブルーベリー園協議会、JBKFarm、NPO 法人一粒舎、（有）竹内商店、群馬県太田焼きそば研究会

4) 特別企画

- みんなで創る“オーガニックツーリズム”&きさらづクイズ
イベントに参加すると豪華景品が貰えます！

(9) 入場料

無料

(10) 広報

イベントポスター・チラシ、市（広報紙、WEBサイト、フェイスブック）など

(11) 事務局（お問合せ先）

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会事務局

千葉県木更津市富士見1-2-1 市役所駅前庁舎

企画課オーガニックシティ推進室内 TEL:0438-23-8049 FAX:0438-23-9338

E-mail:info@k-organiccity.org

URL:<https://www.k-organiccity.org/>

(12) 推進協議会参画団体

区分	団体等名
市	木更津市
産業団体・企業	木更津商工会議所
	木更津市農業協同組合
	イオンモール株式会社 イオンモール木更津
	株式会社かずさアカデミアパーク
	株式会社新昭和
	新日鐵住金株式会社 君津製鐵所
	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社 木更津サイト
	株式会社耕す
教育機関	独立行政法人国立高等専門学校機構 木更津工業高等専門学校
メディア	株式会社ジェイコム千葉 木更津局
	特定非営利活動法人 木更C○N
各種団体	一般社団法人かずさ青年会議所
	きさらづアグリフーズ推進協議会
	木更津市観光協会
	木更津市国際交流協会
	木更津市商店会連合会
	広域交流市民の会

※会 長：木更津商工会議所会頭 鈴木 克己

名誉会長：木更津市長 渡辺 芳邦

副 会 長：木更津市観光協会会長 野口 義信

監 事：木更津市副市長 久良知 篤史

監 事：株式会社かずさアカデミアパーク代表取締役 林 孝二郎

第2 実施結果



1. 全体事項

(1) 来場者数

約 2,000 人

(2) 祝電

参議院議員 猪口 邦子

2. 実施結果

開会式

木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会
会長（木更津商工会議所会頭）鈴木 克己



木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会
名誉会長（木更津市長）渡辺 芳邦



地区まちづくり協議会シンポジウム

少子高齢化や人口減少等の社会環境の変化に伴い、地域の抱える課題も多様化してきています。そのような地域課題を解決するため、地域のことを最もよく知る住民が、地域の特性や実情に応じて主体的に取り組み、行政がその取り組みを支援し、官民一体となって協働して対応することによって、「市民力」「地域力」の醸成と元気な地域コミュニティの形成の実現を目指すため、市では「地区まちづくり協議会」の設立を推進しています。

今回は「地区まちづくり協議会」で活躍しているリーダーズにスポットを当て、日頃の活動成果、並びに今後の地域課題解決に向けた事業展開などを語っていただきました。

【第一部】 リーダーズトークセッション

平成24年度からモデル地区として活躍しているリーダーズ



パネラー 左側から

- ・木更津市長 渡辺 芳邦
- ・岩根西地区まちづくり協議会
会長 鈴木 豊 氏
- ・富来田地区まちづくり協議会
会長 鴫田 宏 氏
- ・西清川まちづくり協議会
会長 平野 正善 氏

進行 ・かずさFM(株) 嘉屋崎 道子 氏

『各地区まちづくり協議会の特徴』

- ・ 岩根西地区まちづくり協議会
防災に力を入れ、災害に強い地域を目指す
- ・ 富来田地区まちづくり協議会
地域の魅力を活かしたイベントと少子高齢化対策
- ・ 西清川まちづくり協議会
防災に焦点をあてて、地域一丸となった見守り活動

『クロストーク』

鈴木 「自助」から「共助」へ。災害が起きた時でも、自分達だけではなくお互いに助け合うことができる。岩根西地区では、「共助」の意識を育むため、地域の顔の見える関係を作ることが重要だと考え、ラジオ体操も実施しています。

市長 いざという時には、やはり「顔の見える関係」は非常に重要です。ただ、顔を合わせる機会がなくなってきているのも事実です。今では地域で顔を合わせるの祭りしかないと言った声も聞いたことがあります。そうすると地域の関係はどんどん希薄になってしまい、いざという時に動けない。これからは、もっともって顔を合わせるチャンスを作っていかなければいけないですよ。

嘉屋崎 ちなみに富来田地区では高齢化が問題となっているようですが、対策とかはありますか？

鶴田 高齢化の問題は避けて通れないんですよ。富来田地区では元気な高齢者には活躍の場を設けて生きがいを持ってもらう。例えば、馬來田駅はボランティアで駅業務を運営してます。みんな60歳以上です。納涼大会では綺麗な歌声も披露してもらったりしています。そして、地域での見守りも非常に重要なことから、防犯カメラを設置して、高齢者の見守り、さらには犯罪の抑止に繋がり、安心・安全な地域の形成を目指しています。とにかく、やれることから始めていこうと思ってます。

市長 富来田っていろんな行事に子どもたちも参加しているんですよ。子どもたちに自分の村のことを口頭で伝えるだけではなく、一緒になって体験することが重要で、それが自然と地域への愛着にも繋がっていくんじゃないかなって思います。

嘉屋崎 西清川地区では町内単位で防犯パトロールを行っているとのことですが、変化とかはありますか？

平野 まちづくり協議会では毎月一回、ボランティアの方に集まってもらってパトロールを実施しております。今年は試験的に夏季・冬季にそれぞれ一回ずつ、毎月のパトロールに加え、町内会単位でも実施することにしました。町内会単位で実施すると、自分達の地区の危ないところとか心配なところが、細かいところまでわかるようになったんです。それに「毎月やるよ」って言ってくれる地区も出

てきて。嬉しいですね。

市長 みんなで一緒になって考えて行動していくことって非常に重要です。それに、今は、町内組織を維持していくのも難しくなってますよね。行政としても町内会への加入率の低下は気にしていかなければいけない課題で。一緒に考え協力して解決の方向性を検討しなければいけないとも思います。



【第二部】リーダーズプレゼンテーション

●岩根東地区まちづくり協議会

防災や防犯、地域の繋がりの強化を目的に区長が中心となり協議会を立ち上げ、運営を行っています。特に協議会として力を入れているのは、いわねEASTふれあい祭りと挨拶声かけ運動です。ふれあい祭りには、県内では2台しかない地震体験車に来ていただき、東日本大震災の揺れを体験する等、地域一体となり、子どもから大人まで防災・防犯について楽しんで学ぶことができました。挨拶声かけ運動は地元小中学校等へ標語の作成を依頼し、地域力の向上を図りました。



岩根東地区まちづくり協議会
会長 青木 健 氏

●金田地区まちづくり協議会

これまでの金田はのどかな漁村でした。そして、アクアラインの開通により、新たな住民も移り住んできました。今年度は防犯と新旧住民との地域交流に焦点をあてて活動しています。防災では「寝てみてわかること」をテーマに、金田小学校にて避難所宿泊体験を実施しました。そして、地域交流については、新旧住民の出会いと交流に力をいれ、「金田コミュニティ Cafe」を実施しています。この Cafe で新旧住民の心と心が繋がり、愛着のある地域になることを目指していきます。



金田地区まちづくり協議会
会長 竹内 三郎 氏

●鎌足地区まちづくり協議会

地域の課題や要望の洗い出しを行うため、地域内でアンケートを実施しました。そこから見えてきた地域課題に対応するため、区長が中心となって協議会を立ち上げました。当地区は、移住者促進のための田畑空き家会議を開催し、空き家の活用や農業をやりたい方を対象にワークショップや事例紹介等を実施しました。また、鎌足地区に住む人、働く人、活躍してる人が出展者となって開催する「かまフェス」も12月3日に開催となりますので、是非遊びにきてください。



鎌足地区まちづくり協議会
会長 市川 一成 氏

●八幡台小学校区まちづくり協議会

上烏田と八幡台、羽鳥野で構成される当地区は新旧住民のコミュニティの希薄化が地域課題です。現在は、防災と地域交流に力を入れて活動しています。防災として、八幡台地区の中心である八幡台公民館に防災用備蓄倉庫を購入し、災害本部として、しっかりと機能するよう設置しました。また、3地区合同での防災訓練を実施し、防災とあわせて、地域交流も図ることを目的としています。さらに、3地区合同での夏祭りを開催し、子供から年配まで幅広い年齢層の方々が楽しんで、地域の良さを伝え、コミュニティの重要性を知る機会となりました。



八幡台小学校区まちづくり
協議会
総務部会長 秋元 豊 氏

“認知症かも？違うよね？” そんな時に一

オビナタクリニック 院長 大日方 研 氏

現在の高齢者の状況

100歳以上の方を世界中で「センテナリアン」と言います。1963年、私が2歳の時、日本で153人、2012年の9月、5万1千人います。そして、今、2015年65,492人おり、そのうち2割の方は自立しており、4割の方が寝たきりです。この寝たきりの人が4割い

るのが、多いか少ないかは置いておきまして、要するに100歳以上の方がこんなにいるということで、高齢化を感じるというのはいかがでしょう。

現在の平均寿命は、女性が87歳、男性が81歳となっており、高齢化が進んでいます。それぞれみんな違い、多様性があります。多様性がある中でそれぞれ理解していく、そして対応していく。その時に筋肉とかいろいろな刺激を受けて対応する力が必要です。ですから、お家の中でテレビ見ておせんべいを食べていては、ダメなんです。なんとか外に出て参加する、そして笑うんです。100歳の方が多くいます。元気な人がいます。是非、まだ頑張れるという気持ちを持ってください。そして、地域で支えれば、それがいい形で反映されます。



認知症かもしれないと思ったらまず相談

認知症かもしれない、そう思う方が多いのではないのでしょうか。忘れた時、助けてくれる方がいるから、安心して忘れてもいいんです。

私は、認知症の方を支えている家族の方からたくさん教えてもらいました。それは、パートナーがしっかりしていれば、元気なのです。これは、医者が一番知らなかったことだと思います。要するに、側にいる方が本人を理解して、その人に対応すれば、元気なのです。だから、認知症の方の内面を知ってもらうことが必要です。

家族が認知症になった時には、自分ひとりで抱えてはいけません。まずは、かかりつけ医に相談する。かかりつけ医が対応できなければ、病院の紹介をお願いすることもできます。また、認知症サポート医がいて、4市には22名の方、木更津市には11名の方がおり、相談にのり、橋渡しをします。また、地域包括支援センターというところがあり、こちらは本当に現場をよく知っています。気楽にお話しができる方々ですので、目にしましたら、是非、お声をかけて気楽にお話ししてみてください。

木更津市行政の方も今、一生懸命取組もうとしています。その中で僕が必要だと思うのが相談窓口です。何か教えてくれるところ、何か聞けるところ、相談できるところ、そういうところをしっかり作りたい。地域包括支援センターと医師会で協力して、このような窓口を作りたいと思います。そのためには、「作って」「こういうのがないと困るよ」等、市民の皆様からの意見も必要です。私たちも頑張りますのでね。

認知証に対する国の方針

認知症については、新オレンジプランという高齢化に伴った認知症の方がたくさん増えた社会で、どう対応するかの国の方針が7つの柱に表されています。こちらは、もちろん啓発活動や医学的なところ、本人のこと、そして、家族のこと、地域のこと踏まえたプランだと思ってください。

皆さんが住み慣れた地で、皆さんらしく暮らしていくため、皆さんで考えていくということが重要視されたものなので、皆さんも是非こちらに参加していただきたいと思います。

画像からわかること

テレビで「治る認知症」というものをやっていて大変好評でした。認知症は、アルツハイマーだけではないのです。認知症の症状を出す病気はたくさんあります。その中でCTやMRI等の画像から得られる情報について話しをしたいと思います。

◎症例1

お腹が痛くなって精密検査をするということで、お腹のCTを撮った方です。どちらも別の人の画像ですが、どちらもお腹が痛いと言って撮ったものです。2人とも胃の中に白い紐のようなものが見えませんか。これは、うどんです。お年を召すとどうしても嚙まないんですね。飲み込んでしまうことでいろんな病気が増えています。このようなことが写真でわかるのですね。

◎症例2

次の症例は急にお腹が痛くなってしまったものですが、これは腸の中にお水が溜まって腸が動いていません。だから大変です。すぐにおしりから造影剤を入れて撮影しました。皆さんがよく知っているものが写っていませんか。これは、しいたけです。丸ごと飲んでしまい、腸閉塞になっています。このように画像を撮ったことで、しいたけで消化不良を起こしたことがわかります。だから皆さん、しっかり嚙んで食べてください。年を取ってベテランになりましたら細かく切りましょう。擦ってもいいですし、とろみ

をつけてもいいです。要するに画像はこんなことがわかってしまうのです。

身近な物の MRI

バナナ、梨、トマト、これは MRI で撮っています。MRI は、切らずに中が見られます。こちらは、開業医で使っている機械です。次に、少し良い機械で撮ります。キウイフルーツとスイカです。これは、同じ場所を違うソフトで撮っています。同じ場所が全部違うように写るのです。この組み合わせから、中の成分や状態を知ることが画像診断の基本です。そうすると、少し痛んでいるのがわかります。そして、これから痛むというのわかります。こういうことがわかる機械で、皆さんの頭を撮る、体を撮るということは、いかがですか。ちゃんと画像診断をすると、いろんなことを教えてくれます。だから、「検査は、いい」なんて言わないでください。これは、すごく重要です。

認知症状の出る病気

認知証になる病気はたくさんあります。認知症の病気は、アルツハイマー病だけではありません。様々な病気もありますが、治る病気もあります。早く見つければ、なんてことないものもあります。認知症の診断をするうえで、画像だけでは認知症の診断はできないのです。

CT を撮る理由は、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症といった認知症症状が出る病気があるか見ることで、血管障害等がなければ、アルツハイマー型だとか、血管性の認知症だなどという診断が決まり、お薬が決まります。慢性硬膜下血腫は、一週間のうちで多いと 2.30 人います。それだけ木更津市の中でどんどん起きている認知症症状です。しかし、これは治ります。ただ、放っておくと大変なことになる場合もあります。

◎症例 一転倒による頭部打撲一

転がって頭を打ち、それから 2 ヶ月くらい経って病変が出た症例です。この方は、受診した時に医師に別に問題ないと言われ、1 ヶ月後に必ず来てくださいという話しもなかったため放置していました。そうしたら 1 ヶ月経たないうちに、頭が痛くなっていますね。それで、ちゃんと歩いていたのに歩けなくなりました。それを画像で見ると脳のしわがないのです。これは、血が溜まって脳がパンパンに張ってしまったんです。これが、硬膜下血腫です。これは、1 ヶ月前に頭をぶつけた影響で、大体 1 ヶ月半前後で起きる有名な病気です。

◎症例 一脳出血一

60 歳の男性です。朝起きたら、突然変なことを言う、何度も同じ話しをするため、家

族が心配して病院に連れてきたそうです。最初にいつもの病院に行って CT を撮ったら異常はないと言われました。それでも、やっぱり変なことを言うからと、私のところで MRI を撮ったら出血していました。でも、この出血の厚みは 5 ミリないですから、普通のところでは見られません。この方は、安静にするだけで吸収されて、大きな病気にはなりませんでした。

◎症例 ー認知症との合併症ー

3 年前くらいからふらふらして、ちょっと歩き方が変だったのです。最近、道もわからなくなることや、話しの筋も合わないということで、認知症だと診断されていた方です。ところが、この方、尿失禁がやたら多くて、何か大変だと相談があったのです。このため、写真を撮りました。そうしたら、脳室が開いています。脳室が開いているのですが、頭のてっぺんの上のほうは割と閉まっています。ということは、脳室が開いて周りを押していることで、障害が出ている、そういう病気です。これは、認知症ではないです。ただ、この方は、若干認知症の脳の萎縮も合併しているため、診断が大変難しい症例です。

◎症例 ーアルツハイマー型認知症ー

アルツハイマー型の方の脳です。今まで見てきたものとは少しタイプが違い、頭の上がスカスカしています。脳の実質部の真ん中のところは変な信号がないのです。脳梗塞等がないので、いわゆる認知症のアルツハイマー型だと言われています。ただ、それだけだと、どこが萎縮しているのかわからないので、VSRAD と呼ばれる特殊なソフトがあります。これは、萎縮した場所だけ色が変わります。そして、平均した年齢の方、60 代、70 代、80 代の平均正常な方と比べて、どれくらい萎縮しているかをコンピューターで見て、客観的に数字でわかるのです。数字で 2 以上になると、平均よりも萎縮しています。

定期的に画像を撮る

今、見ていただいたように、画像というのはいろんなことがわかってしまうのです。今日のような画像は、先生方に見ていただいた方がいいのではないかというくらい、難しいものをわざと持ってきました。皆さんが先生から説明を受けた時、理解しようとする必要があります。さらに、覚えておいてほしいことが、前に特に問題がなかった時の写真を撮っておくと、具合が悪くなった時の写真を比べることができる。そして、それを比べたら、すごく病変がわかりやすいのです。

一枚の写真を見る時、私は一般的な正常の方と比べてみます。でも、その方は一般的ではないかもしれない。顔はみんな違います。だから、是非かかりつけ医に定期的に写

真を撮ってもらい、その画像と比較しましょう。「医者はどこ行ってもいいでしょ。」と皆さん言いますが、かかりつけ医は持ったほうがいいと思います。それは大変重要だと思います。

認知症に関する基本的考え方

転倒、頭部打撲、頭部外傷や、いつもと違う変わったことを言う、いつもできない。そういう時には、是非かかりつけ医に相談してください。そして、画像を撮るといことは重要だと思います。また、速やかな受診が非常に重要です。3日とか4日等温めておくのは、決していいことはありません。かかりつけ医の先生や介護の方と連絡を取りながら受診に繋がるようにしてほしい。認知症かなと思った時には、かかりつけ医の先生にご相談。そして、何か変だなという時は置いておかない。原因はきっと何かあるはずですからね。そういった時は、画像というのは大変力を持っている。写真で撮ったものでいろんなものがわかります。今は、主治医の先生が画像を見てくれます。また、画像の専門の先生もいます。認知症の診断はCTやMRIだけではできないけれども、その以外の情報として画像が与えてくれることは、たくさんあるということを是非覚えていてほしいと思います。



家族の思い ～理解と支えで住み慣れた地域で暮らす～

認知症の人と家族の会 千葉県支部 代表 広岡 成子 氏

認知症の人と家族の会での活動ときっかけ

私たちの会「公益社団法人認知症の人と家族の会」は、1980年に京都で生まれました。その年の秋、千葉県支部もでき、今年で38年の活動しております。私は、千葉県支部の代表となっておりますが、もともとは家族介護で母を10年ほど在宅で介護しました。また、介護保険もない頃、介護を行っている時にこちらの団体の活動を始めました。この時は、自分の介護のためにこの会に入りました。介護が終わった今は、高齢者という年になって、自分の問題として活動しております。



認知証になっても安心して暮らせる社会の実現を目指して

今年の4月に京都で第32回国際アルツハイマー病協会国際会議が開催されました。この時、「認知症ともに新時代へ」というテーマの下、認知症の当事者200名の方が参加されました。そして、若年性認知症の当事者である丹野さん（※1）が、こちらの会議の当事者代表してスピーチの中で、「認知証の人は守られるのではなく、支援者の力を借りて課題を乗り越え、自立することが大事」と訴えました。

この国際会議は、2004年にも行われましたが、その時は日本人で初めてご本人が舞台に立って発表しました。2004年は発表される当事者の方の側にサポートする方がいて、原稿を指でなぞりながら発表を行っていました。それから今回比較すると、全く違いました。認知症の当事者として、おそらく原稿はあったと思いますが、エピソードを交え、非常にユーモアのある話しをされました。このことから、多くのマスコミは、認知症の方でも活躍ができると本人にスポットを当てました。

地域で起こっていること ー介護をしている家族の思いー

しかし、丹野さんのように活動できる方もおりますが、それはまだまだごく一部です。多くの家族は日々の暮らしの中で、介護をしながら生活しております。

今日ここで、地域の中でどういうことが起きているのか、一つお話しをさせていただきます。現在、認知症の方の一人暮らしがすごく増えています。それから、いわゆる認

認介護、老々介護をしている方が増えています。

本日お配りした資料にもあるかと思いますが、私たちの会は、千葉県と千葉市から委託を受けて、認知症コールセンターを行っておりますが、約半数近くの方がお一人暮らし、あるいは高齢者だけの世帯で生活をされています。

認知症への偏見と誤解の中で、介護者の方は周囲が異常に気になります。例えば、ある地域によっては、デイサービスのお迎えが来る時、車にデイサービスの名前が載っている車では迎えに来ないでほしいとのお話があったり、少し離れているところにお迎えに来てもらう家族もいます。また、私たちの会では、家族の交流会を行っておりますが、公民館等で行う時、「認知症の人の家族の交流会」と書かないでほしいと言われるご家族もいます。介護者にとっては、公民館はサークル活動等、いろいろな地域の方が出入りしており、「あの家族はそういう集まりか」という目で見られるという思いから、「アジサイの会」や「コスモスの会」等の名前で交流会を行っている家族もいます。

そして、認知症の方を介護する家族は、心ない言葉に傷つきます。例えば、「うちの家族は認知症なのです。」と言った時に、次に帰ってくる言葉は、「かわいそうに。」「この間会った時はちゃんと話しができてたわよ。」というふうに、認知証になるとその日を境に何もできなくなる、そういうふうに思われて話されることもあります。

ある夫婦の事例

ここで、ある 70 代のご夫婦のお話しになります。こちらのご夫婦は、ご主人が認知症です。男性の場合、なかなか地域に出られない方も多くいます。そんな中、奥さんはご主人が認知証になってから、一緒に地域のグランドゴルフのサークルに参加するようになりました。サークル活動を行う中で、奥さんがサークル仲間に「外出する時は、必ず主人と一緒にいますので、もし主人が一人で歩いていたら、私に連絡をください。」と伝えました。すると、ご主人が一人で歩いているのを近所の方が見かけると、「お宅の旦那がうちの関所の前を通っていますよ。」と奥さんに電話が来るようになりました。このように地域の方に支えられて、今ではご本人が地域で安心して自由に歩き回ることができています。

地域の力を借りて

今、地域の中で、様々な取組みがされています。私は、認知症サポーター養成講座（※2）を受けた方には、オレンジリングを身につけてくださいと伝えています。認知症の人と家族の方が一緒に外に出ている時、「オレンジリングをつけている人を見ると安心するわ。」と家族は言っております。

それから、お茶を飲みながら、認知症の方と地域の方が触れ合える場としての認知症

カフェもできました。また、徘徊模擬訓練、こちらは、徘徊している人を見かけたら、どのように声をかけたらいいのか訓練を行うもので、様々な地域で行われております。このように、今、多くの取組みが始まっているところです。このことから、自分や家族が認知証になったら、できるだけ地域にオープンにして抱えこまずに助けを求めましょう。2025年には、認知症の人が730万人になると言われています。自分たちの問題として考えましょう。私自身も、自分自身の問題として、今後も活動に取り組んでいきたいと思えます。

(※1) 丹野 智文 氏

39歳の時に若年性アルツハイマー型と診断され、その後、認知症当事者として、講演等様々な活動を行い活躍している。

(※2) 認知症サポーター養成講座

認知証について正しく理解し、認知症の人やその家族を暖かく見守る「認知症サポーター」を養成する講座。講座を受講すると、オレンジリングがもらえる。



食育講演会「人と野菜の関係と食育」

築地御厨（つきじみくりや） 内田悟のやさい塾 内田 悟 氏

野菜の歴史

日本は四方八方海に囲まれ、北から南と長いので、旬の境が問題になる。旬が失われ、一年中出回っている野菜だが、そこには農業の問題、種の問題がある。なぜ、四季が大事なのかというと、我々の先人たちが命をつないできた食は、野の菜と地方の食文化であり、地域に根づいてきた食である。



現在、野菜の産地で多いのは北海道や九州で、日本で栽培されている野菜は、160種900品目くらいあるが、そのうち、日本古来の原種は8種余りと日本にもともとあった野菜は少ない。では、どこから伝来してきたのか。

トマトやジャガイモはアンデス、ナスは東アジアから伝来してきた。日本に最初に入ってきた野菜はカブやダイコン。その他多くはシルクロードをより伝来してきたことが日本書紀にも書かれている。

もともと日本に少なかった野菜がなぜこんなにたくさん栽培されるようになったかということ、大きなリスクを抱えた農業の現状がある。それは、農薬や過剰な肥料が使われていることが一番の問題である。

野菜の旬

野菜を通して何が大事なのかということ、野菜たちは優秀で、花をつけ、実をつけ、種を落とす。四季には二十四節気の立春、立夏、立秋、立冬と分けられる。旬を分けると、3月から5月が春野菜、6月から8月が夏野菜、9月から11月が秋野菜、12月から2月が冬野菜と分けられる。

冬旬の野菜には、カブ、ネギ、ハクサイ、ブロッコリー、カリフラワーがあげられるが、日本の風土に合って栽培しやすかった。また、栄養素の含有量の変化が顕著なのはカロテンとビタミンCで、ブロッコリーでは夏のものに比べ、旬である冬場の数値の方が高いデータが出ている。ですから旬の野菜でないものをどうして子どもに食べさせるのか。離乳食、介護食も季節にそった食べ物でなければいけない。

一年を通して野菜の栄養価は同じではない。例えば、人参は春先のものとは今からの時期のものとは栄養価に違いがある。加熱、非加熱調理でもまた違う。調理方法によっ

て栄養価が損なわれるので、情報にとらわれずに自分を信じて判断してほしい。自分から野菜に近づけば、必ず野菜は応えてくれる。一番大切なのは、季節に育まれた野菜の料理を作してほしい。

食で大事なこと

食で大事なことは、安全性、旨み、美味しさ、それと色味。料理も色味が悪いからといって、今、旬でないものと組合せては良くない。何が自分の身体にとって良いものなのか。それは心豊かに季節を感じ、また、収穫の時期まで待つということ。野菜で病気が治ると言う人もいるが、病気は治らない。野菜の持っている力強さは、体内に入って腸で腸内細菌によってアミノ酸を生成し、腸内細菌と融合して必要な栄養分が吸収される。問題は、病気になった対処法ではなく、病気にならないようにすること。何で病気になるのかというと、今の日本の食の乱れが一つの理由。ダイエット、ダイエットと言うが、我々は生まれた段階で体型は決まっている。きちんとした食生活をしていれば、無理にダイエットする必要はない。欧米化の食事が入ってきたことが弊害となっているので、それを克服するには季節に育まれた野菜を食べること。それは日本人に生きづいた遺伝子に記憶されている。

どうか季節を感じてほしい。木更津市は、海のもの、山のもの食べ物豊富にある。日本人の食事のあり方として、一汁三菜、一汁一菜の食習慣があり、そこには必ず発酵調味料があり日本の食文化である。地方にはいろいろな味噌、醤油があるが、生きた天然酵母があるのに、化学薬品で人工的に作ったりもするので、少し値段が高くてもしっかりとした酵母菌で作られた発酵調味料を使ってほしい。また、食品添加物が一番問題で、余りにもカタカナ文字の食品が多くなったため、日本食を乱してしまった。一汁三菜がいかにも日本人の体型に即していたかがわかる。

一年の始まりは七草から。七草とは、セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ。スズナはカブ、スズシロはダイコンのこと。この野菜は平安時代、奈良時代に伝わったといわれ、万葉集の一説にも書かれている。日本にもともとあった野菜は極わずか。野菜がどのような気持ちで育ち、どのように日本に伝わってきたのかを知ることが大事。冬に夏の旬のものを作ってどうするのか。基本的なことを理解して、四季にあった野菜を食べることがサプリメントにもなる。だから、旬まで待つ心の余裕を持たないといけない。

冬の時期に野菜は作れなかった。冬枯れの時に何を食べていたかということ、秋に収穫した食材を保存し、発酵調味料と合わせた料理が主流だった。冬野菜には、ネギ、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ほうれん草、小松菜があるが、季節に合った野菜を選んでほしい。

野菜の目利き方法

皆さんは、生まれてから何回四季を感じたか。100年生きても100回。だから、四季を感じて食を大事にしてください。時期でもない食材を食べさせるのではなく、大事なことは、自分を信じ自分の得た情報を更に膨らませて解釈することが大事である。情報に惑わされないで自分の判断基準を持つこと。

千葉県は食材が豊富で銚子産にキャベツがある。柔らかく美味しいのは気候にあってからで、美味しいキャベツは丸くしまっていて左右均等のものはずっしりと重い。小松菜やほうれん草は窒素の多いものだと真緑色になるが、真緑色のものが健康野菜とは限らず、淡い緑色のものを選ぶこと。ダイコンは市場に出回っているほとんどが青首ダイコンで、寒い冬に霜枯れて凍らないように、野菜たちは自分の身を守るために糖度を増す。ハクサイ、キャベツ、ブロッコリーは寒さから身を守るために身を寄せているので、身のしまっているものを選ぶように。6月から夏野菜が旬のナス、ピーマンは日本の夏に合っている。トマトは夏ではなく春が旬。アンデスの高地で栽培され、高温多湿を嫌うので、夏のトマトは腐りやすい。

旬を考えた時、どこが原産地なのか、どの季節に適合させてきたのか。それには農業を行ううえで、どんな肥料を使ってきたのかを知ることが大事。

買い物の際の野菜の選び方として、キュウリ、ピーマンなら淡い緑色なのか、軸は丸いのか、左右均等か。ダイコンだったらヒゲが点々とあるか、また左右均等か。皆さんはダイコンが収穫までに7cm回ることを知っていますか。これは、放射線状に広がった葉が太陽の光によって時計周りに回る現象。

よく育った野菜は色、形、大きさに現れる。原産地、原産国を知り、大事なものは知り得た情報は止めないで、なぜなのかどうしてなのか考えるようにしてほしい。

旬野菜を味わい良くいただく調理のコツ

一人ひとりが毎日生活を営める命の根源は食である。自分が主役になって料理を作ってほしい。四季が与えてくれる旬のある素晴らしい日本に我々は住んでいる。自然から得る情報はたくさんあるので、野菜との関連を考え料理をしてほしい。

最後に、野菜の切り方についてだが、叩いたり押し切りするなど繊維を断ち切るのではなく、野菜には走りと盛りがある。走りは水分があり瑞々しいので縦切りにし、盛りは成長が止まっているので輪切りにすると良いでしょう。時期によっても、また、切り方によっても味わいに違いが出る。あまり栄養価にとらわれずに季節を感じ、心豊かにこれからも四季を感じてください。女性だけが命を繋ぐことができるのだから、どうか未来の自分自身に責任をもってください。

野菜たちは、私たちに与えてくれた素晴らしい一つの財産です。是非、食卓を囲んだ

際には、「美味しいね。〇〇の季節だね。」と子どもや家族に話しかけてください。
私は、そんな家族が増えてほしいと思い、講演会を行っています。



フェアトレードがめざす持続可能な社会

NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン 事務局長 中島佳織 氏

フェアトレードは、直訳すると公平な貿易。開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立をめざす貿易の仕組みであるフェアトレードが、なぜ求められているのか。その背景や仕組みについて、紹介していただきました。



フェアトレードが生まれたきっかけ

いろいろな物を売買・取引する関係、その間の関係はそもそもフェアに成り立っているものだと思いますが、特に、開発途上国といわれる現場では、この関係がフェアでないことが往々として起こっています。

2つほど皆さんにご紹介したい、考えていただきたいことがあります。一つは「現代奴隷」という言葉です。現代奴隷は世界で4,030万人います。もう一つは「児童労働」、これは国際的に定義が定められていて、ざっと言えば、学校に行く権利を奪われて、かつ、非常に危険な労働をさせられていることを指し、その数が世界で1億5,000万人以上いると発表されています。私たちを取り巻くいろいろな品物、農産物、商品などがありますが、そういったものの背景には実はこういった問題が隠されている、そういうところから生まれたのが、フェアトレードです。

世界的な動き

私たちの商品の背景には、「強制労働」「児童労働」が非常に深刻な規模で行われています。私たちが今日着ているもの、食べたものを辿っていくと、その先にいる方々、原材料を作っている方々の現場で起こっている問題は、逆に辿り返してみると、私たちが日頃買ったり、飲んだり、着ているものと直結しているということが最近国内外で盛んに言われるようになりました。

貧困や児童労働などの人権の問題は、国連やユニセフや国レベルでやればいいということではなく、私たちの日常の買い物やビジネスのあり方を見直すことで、こういった問題は解決してくるのではないかというような捉え方が、かなりされるようになってきました。そういう中でフェアトレードという貿易を通して、こういう問題をなくしてい

こうという運動が世界的にも広がっています。

フェアトレード国際基準

フェアトレード・ラベル・ジャパンという組織は、このマークを日本国内で推進する仕事を担っています。これが、フェアトレードの商品であることを示す国際的な共通の認証ラベルです。青と黄緑に注目するとそう見えませんが、黒だけ見ると人が手を挙げている図です。

このマークがつくまでにどのようなルールを守っているのか、どういう商品にこのマークがつくのかですが、一次産業を作っている途上国の生産者から始まって、最終的に私たちの手に届く最終完成品になるまでの全ての商流を定期的に追いかけて、検査、監査をして、フェアトレードのルールを守って貿易している、生産しているのかチェックして、合格になった商品だけはじめてマークがついているという仕組みになっています。日本ではまだまだ認知度が不十分ですが、世界的には、特にヨーロッパではこのラベルは非常に浸透していて、国によっては90%以上の消費者がこのラベルを知っていると答えています。



どういった基準がフェアトレードと呼べるのかということ、仕組みとして広げるためにはルール化しないといけない、細かく基準に落とし込んでいかないといけないわけです。例えば、コーヒーを作るのにどれだけコストがかかっているのか、子どもたちを学校に行かせるためにはどれだけの利益がないとできないのか、病気になったら病院に行くお金も必要です。単に生産するためのコストだけ賄えば人間らしく生きていけるのか、そうではないので、コーヒーを作るためのコスト、肥料を買う、水をやる、そういうコストをプラスして、子どもたちへの教育や食費、医療費などを加味して、一体どれだけ保障すれば持続可能に生きていけるかどうか、全部調査で金額を割り出しています。経済、社会、環境の3つの側面が揃わないと人々が持続可能に暮らしていけないということで基準が作られているのがフェアトレードの国際基準です。

“Trade not Aid”

一つ紹介したい言葉があります。“Trade not Aid”。生産者から発せられた言葉です。生産者からすれば、フェアトレードは支援、援助ではなく貿易なんだということです。実際にフェアトレードのラベルの仕組みが誕生したきっかけの言葉ですが、「自分たちの国にはたくさん先進国から援助がくる。ODAやNGOが支援にきてくれる。それはありがたいんだが、一方で先進国の人たちが自分たちのコーヒーを買い叩いてくる。それであれば結局支援で援助してくれても根本の問題が解決されていない。そもそも自分たち

が飲んでいるコーヒーを買い叩かないで適正な価格で買ってくれば援助なんかいら
ないんだよ。」と、あるコーヒー生産者が言ったそうです。

世界・日本の市場

フェアトレードの認証をとった生産者が自分たちがつくった物全てフェアトレード
価格で買い取られているかというところではなく、先進国側がフェアトレードの価格で
買うことによって言ってくれる人がいない限りは、非常に不利な状況で売らざるを得ないとい
うのが現実です。生産者が頑張ってもフェアトレードに参加しても、私たち消費国家側に
いる企業や消費者がフェアトレードを選ばないとフェアに成り立ちません。

例えば、コーヒーを販売している企業であれば、いいコーヒーをこれから先もきちん
と調達できるというのは、自分たちの事業に直結する訳です。でも、生産者がその日、
食べるものもない、苦勞するような状況でいいコーヒーを作ろうなんてことにはなら
ない訳で、先進国のコーヒー会社にとってみても自分たちに欠かせない原材料を作っ
ている生産者が安定的な生活をしているということは、いいコーヒーを作ってもらうた
めには条件として必須ということで、企業がフェアトレードを持続可能な調達戦略と
して位置づけて本格的に取り組むことが多くなってきています。

このラベルのついた商品の市場規模は世界全体で見ると約1兆円くらいで、世界の
貿易額から見ると小さな市場ですが、年々フェアトレード商品も増えてきました。一方
で、日本の市場規模は113億円です。世界で1兆円とすると1%ちょっとなので、ま
だまだ伸びる余地はあると思っています。

SDGs (エスディージーズ)

国内外のいろんな企業がフェアトレードをやるようになってきた背景の一つに、
国連の持続可能な開発目標、訳してSDGsがあります。これは、2015年に国連
で採択されました。17の目標が定められていて、今まで途上国の問題として語
られることの多かった貧困問題や飢餓問題が先進国側にもあると言われているので、
社会的な課題を世界中の問題としてみんなで取組んでいこうというような目標です。
国連がやればいい、国がやればいいということではなく、私たち国民一人ひとりも
この目標に向かって、ライフスタイルを見直してみようとか、日々の買い物を少し
意識して変えてみようということが求められてきているということが、SDGsが採
択された背景にあります。企業にしてみても、この17のSDGs



目標をビジネスを通して貢献していくということが、今、国内外で盛んに叫ばれています。大手企業を中心に 17 の目標のうち、どれが自分たちの事業で貢献できるのか、重点的に取組んでいくのか、真剣に議論されている状況です。

貧困をゼロにしよう、飢餓をゼロにしようと言われたときに、今日から私たち国民一人ひとりが具体的に何をやったらいいのか、具体的には、フェアトレードのコーヒーやバナナを選んでみようということが、このゴールの達成に近づくと世界的に言われ始めています。国民一人ひとりのレベルに落とすと、一体こんな高い目標に対して何ができるのかと思われがちですが、買い物という毎日やる行為を通してこれに近づけるんだということで、国内外でフェアトレードに注目が集まるようになってきました。学校教育の中でも若い世代を中心に地理や歴史、家庭科、英語など、いろいろな教科書にフェアトレードが取りあげられています。私が知っている限り 10 年くらい前から教育の中で少しずつ取り上げられるようになってきたんじゃないかなと思います。

持続可能な社会をつくるうえで有効

フェアトレードが持続可能な社会をつくるうえで、有効な手段、方法として評価されていることの表れとして、公共調達に近いところにもフェアトレードが取り入れられているということが世界では進んでいます。例えば、ロンドンの地下鉄の職員、パリ空港の職員、フランスの郵便局の職員が着ている制服もフェアトレードのコットンが使用されています。公的な機関でもフェアトレードのものを積極的に取り入れていこうという流れが世界的に広がりを見せはじめています。というのは、やはり税金の使い方というときに単に価格で比較するのではなく、こういうことを大事にした商品しか調達しませんよという、人権や生産者への配慮というのが調達基準の条件の大前提に入っています。市民の意識も価格の問題だけではなく、安さの犠牲になっているものはないんですかという見目を育てていかないと、両方が成り立ってこういうものが実現していかないのではないかなと感じるところです。

もう一つが 2012 年のロンドンオリンピック・パラリンピックです。競技がフェアであるだけでなく、そこで飲み食いされるものもフェアにつくられたものを使おうよということで、調達基準が作られていました。選手たちが頑張ってフェアプレーしても、子どもたちが苦しみながら作っているようなサッカーボールでフェアプレーなんていうのはちょっとおかしいよねということで、調達基準が作られていました。そこで調達されるものはフェアトレードの基準を守って取引されたものだけを使いましょうというルールがありました。2020 年に東京オリンピック・パラリンピックを迎えますが、ロンドンの時を越えるような取組をしないと、日本としては恥ずかしいのではないかなということで、私たちも日々東京大会にもフェアトレードを採用してもらえるように、いろいろな活動をしています。実は、オリンピックの組織委員会で既に調達基準が発表に

なっており、フェアトレードの取引を優先調達すべきだという文言は入りました。でも、本当にロンドンの時のようにちゃんと使われていくためには、国民一人ひとりがこういうものをきちんと求めているんだという社会的な運動にしていけないと、ロンドンの時のようにはならないと思います。

フェアトレードタウン

世界には今 2,000 以上のフェアトレードタウンが存在しています。日本でフェアトレードタウンは 4 都市あります。熊本市、名古屋市、逗子市、浜松市です。フェアトレードタウンになるってどういうことなのか、基準が定められています。それをクリアしなければ勝手には名乗れません。地元の議会がフェアトレードを指示する決議をしている、あとは、市長がフェアトレードを指示する公式表明をしているということも基準のうちの一つです。

認定を得るためには 6 つ基準があり、その市内でフェアトレードが普及しているかどうかはもちろん問われます。人口 1 万人あたり何店舗フェアトレード商品を扱っているのか、小売店だけではなくて、事業所などでもお客様にお出しするコーヒーがフェアトレードになっているとか、いろいろな方法で事業所もフェアトレードを一体となって応援しているということだとか、地域活性化への貢献というのが定められています。途上国の問題だけを訴えるだけではなく、地域の人たちといかに連携して地域の問題を一緒にやって取組んでいるかということが、フェアトレードタウンに求められています。地域の人たちが人と人が繋がってまちが活性化して、フェアトレードの商品を応援する人が増えれば、それだけその消費も増えるでしょう。市としての取組みもそうですし、市民の人たちもいろいろな活動の人たちが連携してまちが元気になっていく、そんな取組みだというふうに理解していただけたらと思っています。

そうはいつても、日本でフェアトレードは十分に普及していない状況です。国民一人あたり一年間にどれくらいフェアトレード商品を買っているかというランキングがありますが、1 位がスイスで 7,750 円、一方で日本は 79 円、コーヒー一杯も買えない状況です。2020 年のオリンピック・パラリンピックまでには、少なくともランキングの真ん中くらいまでには日本がいけるように頑張っただめていきたいなと思っています。

私たちにできること

フェアトレードというのは作る人がいるだけではダメで、これを選ぶ人がいてはじめて成り立つ、継続できる運動なので、私たち消費者が一人でも多くこれを知って、毎日難しくても、例えば、10 回に 1 回の買い物にフェアトレードを取り入れるとか、そういう人を増やしていくというのが、どうしても欠かせない運動です。

日本でもコーヒーやチョコレートだけではなく、バナナ、ワイン、アイスクリーム、コットンを使ったタオルなどがあります。贈り物をするときフェアトレードの薔薇を選んでみるとか、フェアトレードのチョコレートをお友達にプレゼントするとか、そんな形で思い出したときにでも選んでいただくというのは、一個一個、一人ひとりのアクションが増えれば、世界を変えていく一歩になるんじゃないかなと思っています。

どんな業界にいてもフェアトレードは取組めます。お客様に出すコーヒー、社員のためのユニフォーム、そういうものもフェアトレードの精神に則って、購入していこうという動きが日本の企業の中にも増え始めています。また、名古屋市では小学校の給食、全生徒 12 万食分にフェアトレードを使ったメニューが取り入れられています。何といってもこういうものを日本の社会でもっともっと増やしていくためにも、まだ残念ながらフェアトレード商品の選択肢が日本では十分にはない状況です。

イオンのお店に行ってフェアトレード商品を探せますが、どれだけの割合がフェアトレードかというのは、残念ながらちょっとの割合です。探さないとなかなか見つからない状況です。それを一つでも増やしていくためには、市民一人ひとりの声企業が届くというのが実はとても大事で、イオンという大きな会社がフェアトレードをはじめたのは、今から 13 年前の 2004 年。きっかけとなったのが、愛知県のある主婦の方が、イオンのお店で社会貢献できる商品売って欲しいと声を届けた、これがきっかけでした。たった一人の主婦の声が社長を動かし、フェアトレードに取り組むようになったとの話を聞いています。一人ひとりの力は小さいかもしれないと思いがちですが、是非オーガニックとかフェアトレードといった商品をより買やすくするために、一人ひとりがこういうものを求めているんですよと声を届けていただきたいと思っています。



木更津ゆかりのキャラ大集合

来場者の方にお楽しみいただくため、木更津にゆかりのあるキャラを集合させるイベントを行った。大集合イベントの前に、多くの来場者にお楽しみいただくため、グリーティング（来場者とのふれあいタイム）を行った。

（１）担当

木更津市オーガニックシティプロジェクト検討会議

（２）開催時間

グリーティング： 9時30分～15時00分

大集合イベント： 15時20分～15時50分

（３）参加キャラ

全8体（協力団体4団体）

No	キャラ名	協力団体名
1	Z A Q	株式会社ジェイコム千葉
2	千葉3兄弟（2体）	自衛隊千葉協力本部
3	キサラピアパークキャラクター（1体）	泉陽興業株式会社
4	マジッキー（1体）	新日鐵住金株式会社
5	チーバくん	千葉県
6	きさポン	木更津市
7	のこったくん	木更津市



博物館がつなぐ郷土の過去・現在・未来

▽パネル展示

- ・市制施行75周年記念事業特別展「木更津の中世 真里谷武田氏とその時代」
- ・国指定重要文化財「上総木更津金鈴塚古墳出土品」

▽デジタルサイネージ

- ・国指定重要文化財「上総木更津金鈴塚古墳出土品」

▽チラシ配布

- ・市制施行75周年記念事業特別展「木更津の中世 真里谷武田氏とその時代」

▽パンフレット配布

- ・これまでの特別展等のバックナンバー
- ・常設展示用

(1) 担当

郷土博物館金のすず

(2) 従事者数 市職員：4人

(3) 来場者数 集計せず



木更津市鎌足桜保存会の活動紹介

絶滅の危機にあった「鎌足桜」の保護・育成活動の紹介と、毎年実施している“伝説に彩られた鎌足桜の魅力”を作品テーマにした「写真と短歌・俳句コンテスト」の入賞作品の展示、また、入賞作品を題材とした「平成30年版鎌足桜カレンダー」の頒布を通じ、市内外に鎌足桜のPRを行うことができた。

(1) 担当 鎌足公民館

(2) 従事者数

木更津市鎌足桜保存会：8人

市職員：3人

(3) 来場者数

約100人



自然を知ろう！風と遊ぼう！少年自然の家キャンプ場へ行こう！

●キッズサイエンス教室 協力：木更津工業高等専門学校

○不思議なウインドカーの工作（木更津工業高等専門学校 教育研究支援センター）

○キッズサイエンス講義（木更津工業高等専門学校 内田副校長）

①午前11時～正午 参加者数 20人

②午後2時～午後3時 参加者数 13人

木更津工業高等専門学校の協力のもと、参加者の子どもたち全員が楽しめる工作教室を実施した。風力を利用して風に逆らって進むウインドカーの仕組みを教わりながら、積極的に取り組む子どもたちの姿を見ることができた。また、子ども向けの講義をしていただき、最新の技術を活用して地球規模の大自然の摂理を客観的に見ることで、子どもたちが科学の視点を通して物事を捉えるきっかけとなった。

●竹工作教室「ぶんぶんゴマの工作」 協力：アフタースクールボランティアの会

①午前9時30分～午前10時30分 参加者数 5人

②午後12時30分～午後1時30分 参加者数 12人

自由参加の竹工作教室を実施した。簡単な工作であったが、子どもたちは作りたい形や模様を自分で考えて取り組んでいた。アフタースクールボランティアの会の会員が親身に指導していただいたおかげで、子どもたちは親以外の大人と交流することができた。

●木更津市立少年自然の家キャンプ場の紹介パネル展示

キャンプ場施設の紹介をすることで、自然体験活動の拠点としての魅力を発信することができた。

(1) 担当

生涯学習課

(2) 従事者数

木更津工業高等専門学校 8人

アフタースクールボランティアの会 3人

市職員従事者数 3人

(3) 来場者数 74人



飛び出す絵本のワークショップ&お片づけアドバイス

子どもたちに飛び出す絵本を直接手にとってもらい、楽しみながら本を読んでもらったり、紙芝居で民話を聞かせたり、積み木遊びで楽しんでもらった。子どもたちが遊んでいる間、お母さんにお片づけのアドバイス等を行った。

たくさんのおもちゃに遊んでもらえ、また、お母さんたちにもお片づけのアドバイスの他にも色々お話をすることができ、輪が広がりました。

(1) 担当

特定非営利活動法人木更 CoN

(2) 従事者数

理事 3名 + 他 3名

(3) 来場者

約 190名



みらいラボ出張イベント

「木更津の街をもっと楽しく、もっと元気に」をモットーに活動する応援団から生まれた、ママによるママのためのコミュニティ「ココカラ」。

地域のママの活動、情報提供の場の創出と、地域の子育てをもっと楽しめるようなイベント開催を目的に活動しています。

オーガニックシティフェスティバルでは、毎月行っている「ココカラおやこカフェ」のミニ版を開催。ハンドマッサージ付き子育てトーク、ベビーフォト撮影ブース、ハンドメイドワークショップなどの出店を行いました。



出張ココカラ

①きさらづみらいラボ 登録団体交流会

木更津を拠点に日々様々な活動を行っている市民活動団体。それぞれの団体がどのような活動を行っているのか？団体同士、協力し合えることはないか？などのつながりを作る場として、今回は2つのカテゴリーに絞って話し合いを行いました。

【1部 まちづくり 2部 障害福祉】

まちづくりのカテゴリーに属している団体交流会では普段それぞれが活動している中で協力し合えることはないかなどを話し合いました。実際にこの交流会でつながりを持った団体ができ、次なる活動のヒントになっていました。

また、障害福祉に属している団体交流会では、運営していくうえでの悩みを他団体と共有し、横のつながりを作ることで解決へのヒントを探し出しました。実際に団体同士名前は知っていても、話し合ったことがなく、この交流会をきっかけに様々な角度からの課題解決ヒントが飛び交いました。



②きさらづみらいラボ 登録団体パネル展示

きさらづみらいラボに登録している市民活動団体をパネル形式でご紹介。登録団体に属さない幅広い市民の方に、木更津で活発に行われている市民活動を知るきっかけづくりとして、パネル展示を行いました。

【活動紹介】

パネル展示には17の市民活動団体が参加し、普段行っている活動をそれぞれの団体がオリジナリティあふれるパネルを作成して紹介。

パネルを見た方からは「こんな活動あるんだ」「この活動はこの団体が行っていたのか」などたくさんのコメントが寄せられました。また、団体活動を見て賛同する活動には「いいね」

シールを貼ってもらい、市民の方も参加できるよう工夫しました。



③きさらづみらいラボ 縁日

同フロアで開催されるみらいラボ登録団体『勝手に木更津応援団』のココカイベントに合わせ、親子そろって楽しめる縁日を開催。射的、お菓子釣り、スーパーボールすくいなどの3つのお楽しみ催しを開催。

親子そろって楽しむ！普段の生活で親と子どもが一緒になって楽しむ事はなかなかありません。しかし、今回の縁日では親も子どものように、子どもと同じ目線で楽しんでいました。『射的なんて久しぶりだ』なんていうお父さんの声や、いつの間にかお母さんが主役のスーパーボールすくいなど、親子そろって楽しんでいただけました。



木更津高校展示発表「新しい風をおこそう」

①持続可能な木更津についての考察／提案

生徒約150名の考え等をまとめた。

②種から環境を考えよう

- ・ドングリを植えよう → 市内小学校に配布。
- ・ひまわりを植えて、元気な木更津にしよう

種を20,000粒配布した（市内小学校／中学校・来場者）。

- ・ひまわりの種は、フィボナッチの数列か → 数列になっていることを実証した。

③ペットボトルを再利用して風車を作り、再生エネルギーを産出しよう

教室のペットボトルをリユース、うちわも回収して風車を作り、仲間と力を合わせてうちわを扇ぐことで、発電した。

以上の活動を通して、持続可能な社会は、「人と繋がることが大切である」というキーワードを具現化した。

(1) 担当 木更津高等学校

(2) 従事者数

準備：約200人、当日：8人

(3) 来場者数 約150人



地域で育む市民交流ライブラリー ～書を求めて、町へ出よう～

木更津高専の紹介 ～環境に配慮した研究取組の事例紹介～

本を使ったまちづくりに関する実践と自然環境に配慮した研究の取り組みについて、展示とポスター発表を行った。

当日は多くの人に興味深く話を聞いてくれ、市民の方々との交流が深まった。

(1) 担当
木更津工業高等専門学校

(2) 従事者数
教員：2人

(3) 来場者数
約50人



木更津逸品研究会 お披露目会

木更津逸品研究会会員により、各個店の逸品のお披露目、販売を行いました。また、逸品を利用したワークショップを行いました。

かんながけ体験の様子が目を引き、カードゲーム（逸品）やフラワーコースター作りのブースと併せて親子連れで賑わい、個店の逸品の周知につながりました。

(1) 担当
産業振興課

(2) 従事者数
木更津逸品研究会会員：13人
木更津商工会議所：1人
木更津市職員：2人
(午前・午後で入れ替わり)

(3) 来場者数
約250人



農業ヒーローズ2 ～人と農をむすぶ～

パネル展示、農産物の試食、ワークショップ「おにぎり作り体験」、クイズラリー、アンケートを実施した。

試食については用意していた1,200皿完食。ワークショップについては述べ13人（第1回4人、第2回3人、第3回6人）の参加があった。

約80人の方からパネル展示や試食、ワークショップについての感想をいただき、どれも好評であった。



(1) 担当

農業委員会事務局

(2) 従事者数

農業委員・農地利用最適化推進委員：13人

市職員：6人

(3) 来場者数 約300人

第二回「きれいな海のまち木更津コンテスト」作品展示会

市内小学生 343 作品、中学生 17 作品、合計 360 作品を掲示し、「ゴミのポイ捨て抑止」「きれいな海のまち木更津がずっとつづく」のテーマに合う作品に投票をいただく展示会を実施。100組のアンケートを回収した。

(1) 担当

株式会社ジェイコム千葉 木更津局

(2) 従事者数

イベント担当：4人

(内 着ぐるみコーナー出演2名兼務)

設営・撤収要員：6人

(3) 来場者数

約280人



みんなで創る“オーガニックツーリズム” & きさらづクイズ

会場内の周遊促進を目的に、会場内の柱に掲示したクイズに答えていただいた。また、11箇所の木更津市内の観光地等から行ってみたい又は行ったことがあるところを1箇所選び、シールを貼っていただいた。参加者には、抽選で豪華賞品（協賛いただいた商品等）を提供した。

【景品内容】

特賞	オークラアカデミアパークホテルディナー券（1万円分）	1本
1等	オークラアカデミアパークホテルランチ券（5千円分）	2本
2等	木更津名産詰め合わせセット	3本
3等	木更津無農薬ブルーベリーセット	5本
4等	木更津ナチュラルバルチケット	5本
全問正解	株式会社リオ様提供有機燻製しょうゆ	100本
参加	オーガニックコットン風呂敷	128本
	株式会社ジェイコム様提供グッズ	100本

（1）担当

木更津市オーガニックシティプロジェクト検討会議

（2）従事者数

市職員：13人

（3）参加者数

128人



盤洲干潟の自然環境保全活動

東京湾に残された唯一の自然干潟で、東京湾岸の貴重な財産でもある「小櫃川河口の盤洲干潟」の保全活動を行っている「盤洲干潟をまもる会」の活動内容について、ポスターや写真を用いて来場者に周知を行った。

(1) 担当

環境管理課

(2) 従事者数

盤洲干潟をまもる会 4人

市職員 1人

(3) 来場者数

約160人



千葉県産の杉間伐材を利用した木工ワークショップ

「千葉県産木材」及び「かずさ地区木材組合」をアピールする事により木材への関心を高める事が目的だったが、想像以上に反響があり一定の成果を得られたものと考えている。

一番体験しやすいだろうと予想したコースター作りが思いのほか不人気であり、ミニツリーの完売は予想外だったが、時期的（季節的）な影響と考えている。

内容	数量	単価	金額	備考
ミニツリー作り	29	¥350	¥10,150	完売
手形抜き	3	¥300	¥900	準備数量20
コースター作り	5	¥200	¥1,000	準備数量30
積み木製作	8	¥1,000	¥8,000	準備数量10
チーバくんストラップ	14	¥300	¥4,200	完売
		金額合計	¥24,250	

(1) 担当

かずさ地区木材組合

(2) 従事者数

8人（全てかずさ地区木材組合の組合員及び加盟業者従業員）

(3) 来場者数

ワークショップ体験者数：39人（うち組合員4人）

来場者数：約70人（ワークショップ体験者の保護者等）

ワークショップ体験者平均年齢：34歳

ワークショップ体験者最高齢：81歳

ワークショップ体験者最年少：3歳



鉄鋼スラグを用いた海の森づくりの紹介

ブース来場者に当社の取り組みをご紹介し、普段の業務において接点のない一般市民の方々にも鉄鋼スラグ及びその有用性についてご理解頂くことができたと考えている。

(1) 担当

新日鐵住金株式会社 君津製鐵所

(2) 従事者数

説明員：6人

(3) 来場者数

約40人



フェアトレードを知ろう！

フェアトレードに関するパネル展示やリーフレットの配布、商品の展示により、課題や仕組みについて紹介を行った。

フェアトレード商品がどこで購入できるのか等の質問も多く、用意したリーフレットは全て配付することができた。

また、特設ステージでセミナーが開催されたこともあり、来場者に関心を持ってもらうことができた。

(1) 担当 企画課

(2) 従事者数
市職員 1人

(3) 来場者数
約 200人



千葉大学 デザインサーベイ 2017 in 木更津 成果報告

千葉大学工学部デザイン学科の学生が、本年の9月25～30日にかけて実施した「木更津市における観光創造」の調査研究の取り組みについて、その成果報告をパネル展示によりおこなったもの。

当日は参加学生も会場にて待機し、渡辺芳邦市長をはじめ多くの来場者の方にお越しいただき、そこで質問等に應對しながら、新たなご指摘を頂くなど、さらなる気づきができ、データ等についてもブラッシュアップを図ることができた。

また、9月の調査期間中にご協力いただいた市民の方にも再会でき、さらなる交流を深めることができたことで、学生たちに良い経験をさせていただくことができました。

(1) 担当 千葉大学

(2) 従事者数
教員・学生：12人

(3) 来場者数
約 300人



「水稻除草ロボット」の展示

水稻の有機・無農薬栽培で、最も重要な課題である雑草防除対策について、調査・研究した「水稻除草ロボット」の展示を行った。

- (1) 担当
きさらづアグリフーズ推進協議会
- (2) 従事者数
3人
- (3) 来場者数
集計せず



都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

東京2020組織委員会主催の都市鉱山メダルプロジェクトに参加し、パソコン、携帯電話、デジカメ、ゲーム機を回収。(小型家電から取り出した金属がオリンピック・パラリンピックのメダルに生まれ変わる。)

携帯電話6個を回収。11月下旬から各公民館、図書館、朝日庁舎庁内案内コーナーに設置した携帯電話・スマートフォン専用回収ボックスの見本を展示し、施設の開庁時間に携帯電話等を投入し、メダルプロジェクトに参加できることを周知することができた。

- (1) 担当
まち美化推進課
- (2) 従事者数
市職員：5人
- (3) 来場者数
約30人



オーガニックでやさしい市税の制度説明

個人住民税・固定資産税・軽自動車税について、市民の方のお問い合わせに対し、お答えするもの。

年末調整・確定申告時期が到来することもあり、寄附金控除、配偶者控除等についてのお問い合わせがあった。

また、エレベータ近くにブースを設置したこともあり、会場案内に関するお問い合わせもあった。

(1) 担当

市民税課・資産税課

(2) 従事者数

市職員：3人（市民税課：2名 資産税課：1名）

(3) 来場者数

約15人（内相談件数：7件、案内件数：8件）

「税の作文」の展示

租税教育の内容の紹介及び住民の社会参加をアピールするため、納税の意識付けを目的に小中高校生から応募があった「税の作文」「税の標語」の入賞作品を展示し、作品集（冊子）について、自由に持ち帰れるように配置した。

地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする人を育むための施策の一環として、納税に関する啓発を行うことができた。

（展示内容 作文12点、標語26点）

(1) 担当 収税対策室

(2) 従事者数

木更津税務署：1人

市職員：1人

(3) 来場者数

約70人



認知症カフェフェスティバル

厚生労働省を始めとし、関係省庁が平成27年に策定した「認知症施策推進総合戦略」（通称：新オレンジプラン）の戦略の一つに掲げられ、認知症の方や家族の方、そして地域の方も気軽に立ち寄り、交流や情報交換、そして相談もできる、あたたかい集いの場である「認知症カフェ」が、平成28年度に木更津市内に4箇所できました。

健康で持続可能な暮らしを守るため、環境や社会に配慮し、主体的に行動しようとするオーガニックの考え方は、新オレンジプランの基本的な考えである「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」に通じるものがあります。

このため、高齢者福祉課では、「認知症カフェ」を絡めて、より多くの方に認知症への理解を深めていただくため、「認知症カフェフェスティバル」を実施しました。

認知症カフェフェスティバルでは、市内4つの認知症カフェが合同で、普段のカフェを再現した模擬カフェを行い、コーヒーの提供や、作品作り、耳寄り情報等のミニ講座を行いながら、交流を行いました。

また、イベントステージでは、認知症関連の講演会を開催しました。

模擬カフェも講演会も、多くの方にご来場いただき、関心を持ってもらうことができました。

(1) 担当

高齢者福祉課

(2) 従事者数

関係者：26人（関係団体）

市職員：4人

(3) 来場者数

約200人（ブース来場者数 約100人 講演会来場者数 約100人）

(4) イベントステージ講演内容

「家族の思い～理解と支えで住み慣れた地域で暮らす～」

認知症の人と家族の会 千葉県支部 代表 広岡 成子 氏

「“認知症かも？違うよね？”そんな時にー」

オビナタクリニック 院長 大日方 研 氏

(5) ミニ講座内容

- ・ 大道芸
- ・ ZUMBA GOLD®
- ・ バルーンアート
- ・ 「認知症と運転」 嶋田医院 院長 嶋田 宗彦 氏
- ・ 認知症予防によい食べ物の紹介
- ・ 作品づくり



障害について知ろう！

障害福祉サービス事業所の出店（菓子類販売）が主となって、販売はある程度好調であった。

(1) 担当

障害福祉課

(2) 従事者数

オリーブファームかずさ 2人

hanahako 1人

市職員 1人

(3) 来場者数

72人



見て・歩いて・しゃべって 木更津の公民館をしよう！&カフェ

コーナー

①16 公民館のオーガニックなまちづくりに取り組むパネル展示とスライド映像。公民館での市民の相互の学び合いを通して、出会いと交流、そしてつながりの中で、「支え合いのある地域社会の創造をめざす活動」の展示

②コミュニティカフェコーナー ～木更津を語ろう～

コミュニティカフェコーナーでお茶をいただきながら、自由に来場者と「木更津市の公民館と地域づくり」について語り合う。

③ジモトの行事を体験してみよう！～ぽんぽこラリー大会～
～中学区住民会議主催
地区の青少年相談員が主体となって、地域の子どもから大人まで交流をしている
行事に参加！ 参加者数限定5組

来場した方へ試飲していただいた杯数は1,300杯。コーヒーや展示物を媒介にして、和やかな雰囲気の中で参加者と出展従事者が交流し、いろいろな話題のやりとりや情報交換ができ、コミュニティカフェの体験をしていただくことができた。

ぽんぽこラリー大会は、クイズやゲームをしながら地域を知り、地域の世代を超えた交流をすることが目的の行事だが、今回たまたま同日開催であったので、ラリーポイントの一つとして、昨年のオーガニックフェスティバルのシールをいただき、配り周知させていただいた。

(1) 担当 中央公民館

(2) 従事者数 コーヒー講座(関係団体)：25日1人、26日5人
市職員：25日6人、26日8人

(3) 来場者数 約1,300人



日本赤十字社の事業活動紹介

災害時におけるグッズづくりとして、「新聞スリッパ」「ゴミ袋で雨合羽」「風呂敷リュック」をつくった。

また、会場に設置した東日本大震災義援金募金箱に1,408円、平成28年熊本地震災害義援金募金箱に861円のご寄付をいただきました。

(1) 担当

社会福祉課

(2) 従事者数

木更津市赤十字奉仕団：5人
市職員：2人

(3) 来場者数

約70人



オーガニックシティきさらづ魅力発信コーナー

市が制作したPR動画等を放映するとともに各課のポスターの掲示とパンフレットを置き、PRをした。また、テーブルとイスを置き、休憩所としての役割も担った。

(1) 担当

情報政策課

(2) 従事者数

市職員：2人

(3) 来場者数

約100人



健康応援コーナー及び「第3次健康きさらづ21」展示

【お口の健康度測定】

- ・唾液によるむし菌菌数のチェック
- ・咬合力計を使用した噛む力（kg）のチェック

○むし菌菌数は、歯科医院に行かないと実施できないテストである。家族全員の状態を調べることで家族内感染の状況を簡易に知る事ができ、家族連れには好評であった。噛む力のチェックは色々なイベントで実施しているが、その結果は年齢、性別による差よりも、普段の生活の中でどのように食べているかが、結果に作用することから、自分の食事の摂り方を考えるきっかけになっていたようであった。

【塩分・脂質・糖分】・・・掲示・展示

- ・私達の食べている塩分は（黒紙ポスター）
- ・市販品の塩分及び脂質のフードモデル
- ・購入したフードモデル
- ・野菜のフードモデル
- ・フードモデル飲料・菓子

【塩分・糖分測定】・・・来場者の持参したもの及びサンプル用意したものを測定

【木更津市の現状】・・・パネル展示（県内、本市の疾病状況等）

○来場者は掲示物、展示物を興味深く見ており、清涼飲料の糖度測定で自己振り返りをしていたことから、啓発につながった。

（1）担当 健康推進課

（2）従事者数 市職員：3人（歯科衛生士1人・栄養士2人）

育休代替：1人（歯科衛生士1人）

臨時職員：3人（歯科衛生士3人）

（3）来場者数 お口の健康度測定 198人

調べてみよう塩分・糖分！ 186人



木更津市議会の議場見学

木更津市議会の議場を開放し、見学を実施した。(職員が同行して説明や質問等に対応。)

想定していたよりも多くの方が訪れ、熱心な質問も多く、議場や議会に関心を持っていただけたと思われる。

(1) 担当

議会事務局

(2) 従事者数

市職員：4人

(3) 来場者数 51人

【内訳】市内 計41人

うち 10代 6人、 20代 2人、 30代 8人、
40代 10人、 50代 9人、 60代 6人

市外 計10人

うち 10代 0人、 20代 0人、 30代 4人、
40代 4人、 50代 1人、 60代 1人

フードコーナー

来場者をもてなすため、また、市内外に木更津の食をPRするため、市内で活動する出店者を中心に、地元食材を使用した弁当販売などの飲食店・農産物・雑貨等加工品の販売を行った。

(1) 場所

本館4階及び屋外スペース

(2) 出店数

23店舗

No	出店者名	販売内容
1	地元女子高生プロデュース・地元食材を使ったワンコインランチ	木更津東高校の生徒と四季味宴席「たく」がコラボし、メニュー開発したお弁当
2	木更津市観光ブルーベリー園協議会	無農薬、完熟ブルーベリーで作ったゼリー、ジュース、ジャム など
3	JBK Farm	無農薬パッションフルーツで作ったジャムやゼリー、ブロッコリー など
4	ベアーズ	フィッシュバーガー、コロッケバーガー、飲料 など
5	ピッツェリアスクデット	国産小麦粉のピッツァ、フォカッチャサンド など
6	医農野菜の会	季節の朝どれ野菜（大根、かぶ、小松菜、春菊 など）
7	木更津焼きそば	焼きそば
8	自然酵母 山のパン屋	自然酵母パン、無添加自家製ソーセージ ホットドッグ
9	手作りジャム工房～iPP0～	手作りジャム数種類
10	となりの家	ドライフルーツ&季節のスープうどん
11	いのもと農園	野菜
12	Natural Cafe+Shop hanahaco	豚汁、弁当、おにぎり
13	ののま自然農園	自然農の野菜、自然農のお米
14	鶏順龍の唐揚げ	唐揚げ
15	ヤシャール	ケバブ
16	PANTRY JACK	ピザ、ドリンク

17	Bee Concierge	はちみつ
18	糸の里山	玄米団子、餅、おこわ
19	ひととわ	パン
20	なのはな生協	野菜、調味料、お菓子、パン
21	(有)竹内商店	オーガニックロゴ T シャツ等販売、プリント体験
22	群馬県太田焼きそば研究会	焼きそば
23	NPO 法人一粒舎	ブルーベリー（ジャム、マフィンなど）、豚のモツ煮

(3) 市職員事務人数

4人

(4) 出店者からの声（アンケートによる）

- ・ 来客数は少なかったが打率がよかった。客との相性がよかったのかもしれない。
- ・ 関心のある方が多くやりやすかったです。

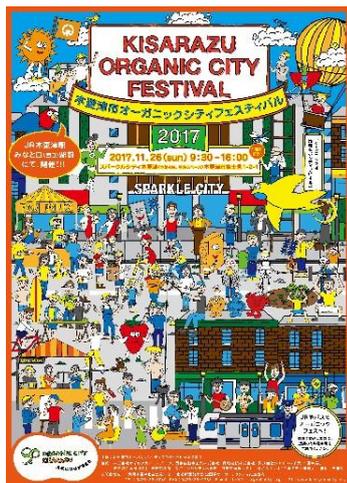


第3 広報・配布物関係



(1) ポスター及びチラシ

ポスター (A2)、チラシ表面 (A4)

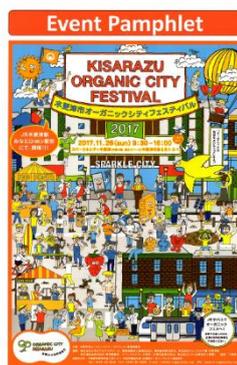


チラシ裏面 (A4)



(2) 当日配布パンフレット

サイズ A3 2つ折り (4ページ折り)



第4 決算書



○収入

(単位:円)

項目	収入額	手数料	摘要
1. 負担金	2,246,448		
①負担金			
木更津市負担金	2,246,448		
2. 諸収入	215,600		
①諸収入			
協賛金	210,000		
駐車場回数券販売	5,600		
合計	2,462,048		

○支出

(単位:円)

項目	支出額	手数料	摘要
1. 会場費	1,337,482		
①光熱水費			
スパークルシティ木更津	35,066	432	
②備品借用			
机・イス・パネル等	1,300,000	432	
③手数料			
道路使用許可手数料	2,200		
④おむつ換室			
使用済おむつ用バケツ	216		
2. 開催費	32,400		
①司会謝礼			
司会謝礼	32,400	432	
3. 広報費	328,255		
①デザイン、印刷費			
チラシ5,500部・A2ポスター200部	29,052	216	
チラシ500部(追加)	3,888	216	
ポスター100部(追加)	9,504	216	
パンフレット2,000部	15,811	216	
デザイン等作成費	270,000	432	
4. 運営費	37,276		
①消耗品費			
会場内掲示用パネル	1,598		
スタッフ用名札	7,678		
スタッフ用駐車場回数券	28,000	108	
5. 食糧費	648		
①飲物代			
講師用飲物代・紙コップ	648		
6. その他	27,300		
①イベント保険			
保険(新種・傷害)	22,550		
②イベント保険対象外			
テント修繕費	4,750		

7. ステージ・まちづくりイベント出展関連経費		691,883		
①企画課				
	フェアトレードセミナー講師料等	60,634	432	
	フェアトレードパネル等配送費	9,143		
	フェアトレード展示配布物品	1,542		
②市民活動支援課				
	市民活動啓発事業委託費	108,000	432	
	シンポジウム司会進行委託費	54,000	432	
	展示用備品	27,279	216	
③健康推進課				
	展示用備品	76,216	432	
	歯科衛生士(3名分)賃金	23,437		
④高齢者福祉課				
	講演講師 謝礼	30,000	648	
	展示用備品	9,810	216	
⑤環境管理課				
	展示用備品	7,970	216	
⑥生涯学習課				
	のぼり	6,858		
	展示用備品	8,032		
	キッズサイエンス教室材料費	20,634		
⑦中央公民館				
	展示用備品	9,936		
	無料配布用珈琲豆等	25,000	216	
⑧鎌足公民館				
	展示用備品	47,555	432	
⑨農業委員会				
	試食用食材	48,000		
	試食用備品等	13,031		
⑩特定非営利活動法人木更CoN				
	ワークショップ材料費一式	54,000	432	
⑪木更津高校				
	展示用備品	5,702		
⑫フードコーナー				
	木更津東高校プロデュース・地元食材を使ったワンコインランチ			
	展示用備品	16,280		
⑬その他				
	みんなで創る"オーガニックツアーリズム"&きさらづクイズ			
	展示用備品	3,780		
	景品代	25,044		
合計		2,455,244	6,804	

収入	2,462,048
支出	2,462,048
収支差額	0

※振込手数料含む